

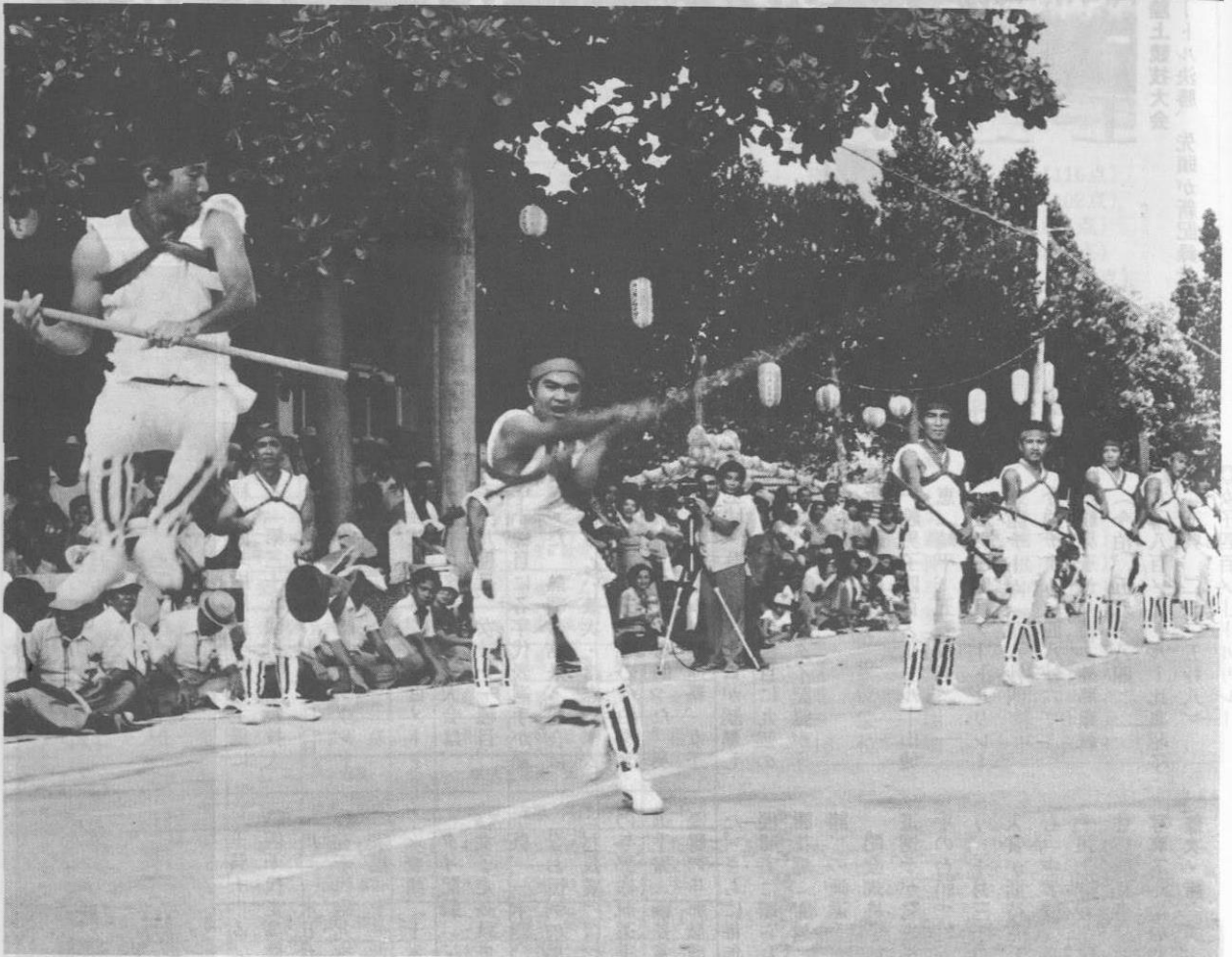
広報 なぎじん

No. 96

1983年11月

村章

(毎月1日発行)



▲今泊の棒術

先月号に続き、今年の豊年祭（9月21日）の1コマから。今月は今泊の棒術に登場願った。

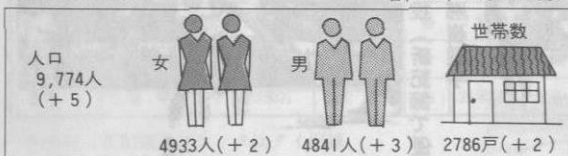
棒術は古来攻撃ではなく防御を目的として発達してきた。村内各地で保存継承されているが、中でも今泊の棒は規模と力強さで村を代表するものといえる。

公民館前の旧馬場跡でくり広げられた豊年祭では、50組百人が出演。それぞれの組手が異なるとあって、息をつかせぬ迫真の演武が次々披露された。

生活の中に生きるまつりと伝統芸能。民俗の息吹と躍動に思わず興奮させられる。後方のコバティシは樹令三百数十年。伝統芸能とともに字の歴史をしるす生き証人だ。村の誇れる風物詩棒は今も生き続けている。

今帰仁村の人口

昭和58年9月30日現在



- 二・三 第三十八回村陸上競技大会
兼次・諸志チームが初の総合優勝
男子—今泊、女子—玉具が制覇
- 四・五 池城墓（イチクシク墓）
近世初期の琉球を反映
村政発展に尽くした
十二人を村政功労者として表彰
十一月は国民年金推進月間
- 八・九 古文書への招待
薩摩軍の今きじん通過記録⑩ 最終回
若き後継者たち ⑮
野菜とともに歩む
崎山の金城弘さん
- 十一 高まる花いっぱい運動
婦人会が美化コンクール
村民カレンダー
- 十二

今月の主な内容

第38回村陸上競技大会



盛大に開催された村陸上競技大会
(写真は男子四百メートル決勝、先頭が新記録で優勝した
崎平の山城選手)

兼次・諸志^{チーム}が初の総合優勝

男子—今泊、女子—玉・呉が制覇

村体協(内間敏会長)主催による「第三十八回村陸上競技大会」は、秋晴れの十月九日(日)午前八時半から村宮グラウンドで行われた。

開会式に続き、男子百メートル予選でスタートした大会は、

男子十九種目、女子十一種目、壮年十種目に各字代表選手が覇を競った。熱戦の結果、総合は躍進著しい兼次・諸志チームが、昨年まで三連勝の今泊をおさえ初めての優勝を飾った。男子は今泊チームが四連覇、女子は玉城・呉我山チームが制覇した。また、次の七種目に九個の新記録、一種目にタイ記録がうまれた。

新記録

◎一般男子四百メートル—山城

恵(崎平、五五秒七)

◎一般男子四百メートルリレー

兼諸チーム(四八秒四)

今泊チーム(四八秒六)

◎一般男子やり投—与那嶺誠

(今泊、五八米八四)

◎女子八百メートル—比嘉昭子

(玉呉、二分二五秒八)

◎女子四百メートルリレー

玉呉チーム(五九秒七)

◎四十代走高跳—仲松弥一(湧

川、一米五五)

◎五十代砲丸投—西平守武(仲

宗根、十一米一九)内間栄松

(兼諸、十米五〇)

タイ記録

◎女子走高跳—新里アキノ(玉

呉、一米四〇)

なお恒例の男子最優秀選手賞(村長賞)は、男子やり投優勝の与那嶺誠選手に、女子最優秀選手賞(議長賞)は百メートル優勝の与那嶺理世選手に贈られた。さらに毎年男女百メートル優勝者に贈られる山城金長賞は、謝花篤(謝越)与那嶺理世(兼諸)の両選手が獲得した。

閉会式終了後、国頭郡大会派遣選手が発表されたが、新人選手の台頭で好記録が続出しており、十月三十日の大会では上位入賞が期待されるところ。これも「中学校・高校と学校での選手強化が実を結んだもの」と、体協関係者は喜んでいる。
写真下—初の総合優勝を遂げた兼次・諸志チーム



▶男子やり投(新記録で優勝した今泊の与那嶺選手)



▶五十代砲丸投(新記録で優勝した仲宗根の西平選手)



種目別順位と記録

種目	順位	1 位			2 位			3 位		
		氏名	チーム	記録	氏名	チーム	記録	氏名	チーム	記録
一般男子 100M		謝花 篤 謝		11' 4	仲本 満 今		11' 5	山城 透 崎		11' 8
200M		大嶺 敦 謝		24' 2	山城 秀 崎		24' 8	喜納 政成 宗		24' 9
400M		山城 恵 崎		55' 7	我那覇宗康 与		55' 9	鳥袋 輝也 兼		56' 7
800M		喜納 政成 宗		2' 16' 5	山城 嘉 兼		2' 18' 7	糸洲 朝光 古		2' 19' 4
1500M		嘉陽 宗真 玉		4' 26' 0	上間 直樹 今		4' 26' 5	山城 嘉 兼		4' 48' 0
5000M		上間 哲 今		16' 53' 2	嘉陽 宗真 玉		17' 27' 6	比嘉 義彰 古		20' 29' 02
10KM		上間 哲 今		36' 42"	崎山 健一 勢		40' 49"	大城 順次 天		41' 46"
20KM		上間 哲男 今		1' 18' 46"	糸洲 朝光 古		1' 19' 51"	西平 守隆 天		1' 25' 35"
110MH		山城 正樹 宗		17' 0	鳥袋 幸輝 兼		17' 1	嘉数 治樹 今		19' 6
400MR		兼諸チーム		48' 4	今泊チーム		48' 6	玉呉チーム		50' 4
1600MR		兼諸チーム		3' 56' 9	今泊チーム		3' 57' 2	仲宗根チーム		3' 58' 3
走高跳		嶺井 政次 天		1米65	山城 正樹 宗		1米65	与那嶺直樹 与		1米60
走巾跳		大嶺 敦 謝		6米33	与那嶺吉文 兼		5米91	新城 満 今		5米84
三段跳		鳥袋 幸輝 兼		13米19	仲本 満 今		12米50	山内 学 与		11米50
棒高跳		嘉陽 宗隆 湧		3米00	与那嶺直樹 与		3米00	小那覇安啓 勢		2米90
砲丸投		喜納 政満 宗		10米61	山城 智 兼		10米53	上里 朝和 天		9米74
円盤投		与那嶺勝明 今		29米46	上里 朝和 天		27米30	神谷 正 湧		26米67
やり投		与那嶺 誠 今		58米84	山城 智 兼		46米28	宮里 政伸 謝		42米90
年令別R		今泊チーム		50' 2	兼諸チーム		50' 4	兼諸チーム		51' 9
30代 100M		嘉数 照光 今		12' 2	大城正正秀 崎		12' 2	鳥袋 宗弘 与		12' 3
1500M		松本 利夫 謝		4' 53' 1	大城 清彦 湧		5' 06' 5	上里 光秀 崎		5' 07' 3
走巾跳		大城 正秀 崎		5米65	鳥袋 宗弘 与		5米40	喜屋武 清 天		5米21
円盤投		内間 一仁 兼		29米97	真栄田 修 天		27米51	山城 直樹 宗		25米87
40代 100M		諸喜田信夫 兼		12' 3	仲宗根武一 今		12' 8	新城 正男 天		13' 3
800M		新城 正男 天		2' 24' 4	仲本 光秀 今		2' 27' 0	金城 忠徳 古		2' 30' 6
走高跳		仲松 弥一 湧		1米55	田港 朝和 天		1米40	仲宗根武一 今		1米35
砲丸投		西平 守輝 天		10米25	大城 藤夫 兼		9米94	大城 政年 謝		9米50
50代 100M		内間 栄松 兼		13' 8	光武 俊和 今		14' 2	金城 新治 与		14' 5
砲丸投		西平 守武 宗		11米17	内間 栄松 兼		10米50	与那嶺 勝山城 金長 今玉		9米39 9米39
一般女子 100M		与那嶺理世 諸		14' 1	比嘉 弘美 玉		14' 1	上地 章子 宗		15' 0
200M		比嘉 弘美 玉		30' 2	玉城ヒフミ 宗		30' 7	玉城スエ子 兼		32' 6
400M		比嘉 昭子 玉		1' 05' 5	小渡 真弓 宗		1' 14' 2	大城 禎美 兼		1' 17' 5
800M		比嘉 昭子 玉		2' 25' 8	西島 清美 与		3' 10' 2	前田 芳美 宗		3' 18' 8
100MH		玉城ヒフミ 宗		18' 7	与那嶺理世 兼		19' 4	玉城 尚子 湧		22' 3
400MR		玉呉チーム		59' 7	与仲チーム		1' 04' 3	兼諸チーム		
走高跳		新里アキノ 玉		1米40	大城 禎美 兼		1米25	山城 孝子 与		1米25
走巾跳		上地 章子 宗		4米15	坂名城和子 湧		3米87	大嶺 祐子 謝		3米82
砲丸投		西平 尚子 宗		8米02	照屋喜和子 勢		7米79	大城 睦子 兼		7米65
円盤投		照屋喜和子 勢		25米16	玉城 明美 今		24米51	大城 睦子 兼		21米97
やり投		玉城 明美 今		28米01	兼次 千代 古		26米84	比嘉 純子 玉		25米85

※赤印は新記録、ゴシックはタイ記録。

順位

- 総合
優勝—兼次・諸志チーム
準優勝—今 泊チーム
3位—仲 宗 根チーム
4位—玉城・呉我山チーム
5位—湧 川チーム
6位—天 底チーム
7位—与那嶺・仲尾次チーム
8位—謝名・越地チーム
9位—崎山・平敷チーム
10位—勢理客・渡喜仁チーム
11位—古 宇 利チーム
12位—両 運 天チーム

- 男子
優勝—今 泊 (116点)
準優勝—兼 諸 (102点)
3位—仲 宗 根 (65点)
4位—天 底 (62点)
5位—湧 川 (50.5点)
6位—謝 越 (48点)
7位—崎 平 (43点)
8位—与 仲 (40点)
9位—玉 呉 (28.5点)
10位—古 宇 利 (20点)
11位—勢 渡 (15点)
12位—両 運 天 (7点)

- 女子
優勝—玉 呉 (43点)
準優勝—兼 諸 (41点)
3位—仲 宗 根 (40点)
4位—与 仲 (21点)
5位—勢 渡 (18点)
6位—湧 川 (18点)
7位—今 泊 (17点)
8位—古 宇 利 (10点)
9位—謝 越 (9点)
10位—崎 平 (6点)

▶男子優勝の今泊チーム



◀女子優勝の玉城・呉我山チーム



池城墓(イチグシク墓)

近世初期の琉球を反映

はしがき

池城墓は、イチグスク墓あるいはイチグシク墓と呼んでいる。崎山の港原から、ジニンサガラ下流(その付近は、平敷川と呼ばれている)に、架けられた十二・三メートルの橋を渡った崖下にある。墓の位置から、数百メートル下流は炬港である。

墓の概要

墓は、「今帰仁村地形・地籍併合図」(今帰仁役場)によると、字平敷小浜原に位置する。今回は、池城墓について、墓の概要・碑文・二つの伝説と毛姓家譜について述べ、最後に池城墓および墓碑のもつ意義について述べることにする。

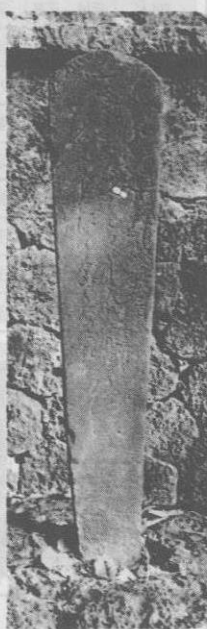


池城墓と墓碑

池城墓が、なぜイチグスク墓と呼ばれるのか、その由来について今のところよくわかっていない。墓や墓碑が、建てられた当時から、そう呼ばれていたのか。それを示す資料は、まだみたことがない。ただ、明治十七年に記された屋部の久護家(岸本家^①)の「元祖歴代日記」(虫害のため昭和五年写替)に、

「今帰仁村崎山按司加那志池城御墓碑文」と記されているのを見ると、明治初期には池城墓の名称があったことがわかる。大正六年に発行された「国頭郡志」に「其由緒詳かならず」とあり、よくわからなくなっている。墓は、崖下にあり掘り抜き横穴式になっていて、墓の前面は切石で一・五〜一・七メートルに積まれている。墓の上部分には石板で屋根型にヒサシをつくり墓室への入口上部のヒサシには、十八本の垂木を模して石が彫られている。屋根部分と前面上部分は、漆喰で塗り固められている。墓室への入口は、アーチ形の門をなし、二枚の板戸がたてられている。

墓室の内部は、横幅六メートル、奥行四メートル程の広さになっている。奥の方は、高さ一・二〜一・三メートルのタナになっている。タナの方は、三つの部屋に仕切られている。中央のタナには、ミカライシ(海石)でつくられた石厨子が一墓あり、その胸部前面部に「崎山大やくもい 寛文三年八月廿一日」と記されている。左側



▲池城墓の墓碑

のタナには、二基の石厨子、右側のタナには、厨子裏が一基安置されている。下の中央部には、石厨子型をした焼物があり、その中には多くの人骨が葬られている。左右の隅と手前右側に一基づつ厨子裏が安置されている。池城墓のような墓の形態を、横穴式・掘り込み式・破風墓といわれている。このような破風墓が、琉球であらわれたのは玉陵で一五〇一年につくられた。このような墓を、一般庶民がつくることは禁止されており、許されるようになったのは廃藩置県後のことである。池城墓は、墓の形態、あるいは琉球における墓制をみるうえで貴重なものである。

碑文について

墓庭には、一・二メートルの墓碑が建てられている。墓碑の表には、

大清康熙九年庚戌八月廿三日
寅十一月八日
一さき山大やくもい同人女房大
あむしられ 同人子たまくす
未十二月十九日
「未十二月十九日」(一六六七年)は、「たまくすのろくもい」の死去した日である。年代順にみると、一六六二年

くのろくもい
右三人入申ために石さいくたの
ミ仕たて申候
とあり、裏には、
七月十六日八月廿三日まで仕候
石さいくたのはせそこにや
わ
きさいく内間にや
戌八月廿三日ころのおきて
とある。
「大清康熙九年庚戌八月廿三日」(一六七〇年)は、裏の「七月十六日八月二三日まで仕候」と合わせみると、墓および墓碑建立の日、つまり三人を合葬した日とみることができるとある。
「寅十一月八日」(一六六二年)を、崎山大やくもいと女房の大あむしられ兩人の死去した日とみならず見解がある。それは墓室の崎山大やくもいの石厨子に、「寛文三年八月廿一日」(一六六三年)と記されていることから妥当でない。寅十一月八日は、女房大あむしられの死去した日とみることができるとある。
「未十二月十九日」(一六六七年)は、「たまくすのろくもい」の死去した日である。年代順にみると、一六六二年

に女房大あむしられ、一六六三年に崎山大やくもい、一六六七年に子の玉城のろくもいが死去した。そして、三年後の一六七〇年に、墓および墓碑の建立ということになり、三人を合葬したとみることができる。

次に、碑文に記された位階についてみると、まず「大やくもい」がある。大やくもいとは、役職についているもの、あるいはついでいたものをさして呼んでいたという。また、三司官などの重臣や近臣を呼ぶ場合もある。大やくもいに、親雲上や親方の字をあて、間切や村を采地として授けられた。「さき山大やくもい」は、崎山村を采地と呼ばれたものであろう。久護家の「歴代日記」では、「崎山按司加那志」と記されている。

「大あむしられ」は、琉球における最高の神官「聞得大君」のすぐ下に位置する階級で、首里・儀保・真壁の三人の大あむしられがいた。今帰仁間切は、儀保大あむしられの管轄下であり、池城墓に葬られている大あむしられは、そのひとりである。

「たまくすくのろくもい」は、玉城ノロのことで、墓碑建立のころのことについてはっきりしないが、「琉球国由来記」（一七二三年）以降は、玉城・仲宗

根・謝名・平敷の四ヶ村の祭祀を司る公儀ノロである。その伝統は今でも受け継がれている。

二つの伝説と毛姓家譜

池城墓には、二つの伝説があり、すでに「南島風土記」や「今帰仁村史」で紹介されている。

一説は、「笑古漫筆」（真境名笑古）にあるもので、尚真王が炬港修理のとき、今帰仁間切を巡行し、美人の儀保大あむしられとの間に子ができ、その子を大新城といい、池城墓はその大あむしられの墓であるという。もう一説は、尚真王が弁が嶽を訪れたとき、そこで一心に拝んでいた女、儀保大あむしられを一見し側室に迎えた。妊娠した彼女は、今帰仁の崎山へ行き、そこで出産した。その子が、九歳になったとき首里へ行き大新城と名乗った。儀保大あむしられは、そのまま崎山に残りそこで一生を終えた。彼女を葬ったのが池城墓であるという。

鳥越憲三郎氏の見解を少しひくと、オモロの「ここへいけくすく」（十七巻）は、悲劇におわった墓の主を弔いに来たある女官が詠んだもので、後世（一六七〇年）に那覇の石工が墓前に石碑を建てた。碑文から、崎山大親雲上と妻の大あむしられが同じ日に死亡したもので、

後に兩人の子の玉城ノロを合葬した墓であるという。

真境名氏の伝承が正しければと前置し、尚真王の四十二か五十四歳のときのことだとされ、さらに想像を許すならばとし、儀保あむしられは、国王が今帰仁間切巡行のさいお伴し、そこで愛欲の相手にされ、夫に露見し夫婦そろって自殺したものと考えておられる。

「琉球祖先宝鑑」の中に、伝説と同じ人物のでてくる記事があり、「池城、大祖は毛龍吟池城親方安基ニテ尚真王落胤ナリト云フ。母ハ儀保阿母志良礼其先祖不知。安其ハ尚真王世代法司也。尚元王即位ノ時大功アリテ世ニ大新城ト云フ」とある。その記事は、二つの伝説と関わりあるもので、それは「毛姓家譜」にもとづくものであろう。ただし、毛姓家譜には伝説にある尚真王と儀保大あむしられとの関係や「宝鑑」の池城安基が「尚真王落胤ナリ」との記述はみあたらない。

伝説・宝鑑・家譜の儀保大あむしられは、池城安基（大新城）の母である。家譜によると安基は、万暦五年（一五七七年）四月二十九日卒とある。彼は、嘉靖二十六年（一五四七年）に宮古・八重山で制度を定立し翌年帰国している。安基の年代か

らすると、母の儀保あむしられの時代は、尚真王（在位一四七七一—一五二六年）と充分重なる時代ではある。家譜に「先祖世居今帰仁」とあり、毛姓池城家が今帰仁と関わりの深いことがわかる。

ここで問題になるのは、伝説や毛姓家譜の「儀保大あむしられ」と墓碑の「大あむしられ」が同一人をさしているかどうかである。伝説や家譜の大あむしられは、尚真王の時代の人であり、少なくとも安基死去（一五七七年）以前の人である。墓碑の大あむしられの死去は、前述した一六六二年である。すると両者の間には少なくとも八十五年以上のへだたりがある。後世になって、合葬や移葬した例はあるが、それをもって両者を結びつけるとしても、まだ問題が多すぎる。

池城墓のもつ意義

碑文に記された三人の業績や人物なりについて、具体的にすることはできないが、位階あるいは墓をつくるのに那覇の石細工をして建立させていることなどをみて、由緒ある人々であることがうかがえる。一六七〇年に、この今帰仁の地に破風墓をつくるということは、今帰仁と深い関わりを持つ人々たちで、

位階からもそのことはいかがえた。碑文の「さき山」と「たまくすく」は、琉球における村落名表記が、ひらがなから漢字へ移行する過渡期を示す資料である。破風墓という墓の形態・墓碑・石厨子の「寛文」の日本年号など多くの意義をもつ。それらのことから、近世初期の琉球を反映した墓であるということが出来る。

註①屋部（現名護市）の久護家は、「崎山按司加那志」碑文の「さき山大やくもい」を元祖とする「歴代日記」（糸図）をもつ一門である。

②名嘉真宜勝「沖繩の墓地」
「墓地」社会思想社一八二頁。

③東恩納寛惇「南島風土記」全集七六四—七五頁参照。
④「今帰仁村史」五九七—九六一—七頁参照。

⑤鳥越憲三郎「沖繩の神話と民俗」一九八—二〇〇頁参照。

⑥「毛姓家譜」は、表紙は「毛氏池城家系図」となっている。那覇市史編集室資料提供。

村文化財保存調査委員

仲原弘哲

村政発展に尽くした 十二人を村政功労者として表彰

村表彰条例に基づく「村政功労者表彰式典」が、十月二十二日午後三時より役場ホールで行われた。表彰は、村の産業・文化・福祉など行政全般にわたり功績のあつた方々を讃えるとともに、村政の発展に寄与しようというもの。

式典には、村内各団体から百三十名が参加。受賞者を祝福した。なお被表彰者は次のとおり。

○嘉陽宗哲（字湧川六〇三）
○嘉敷安喜（字今泊一五七）
○宮城新喜（字古宇利一六七）
○小那覇安清（字渡喜仁七〇二）
○志良堂清次郎（字湧川一八五二）
○大城静雄（浦添市字大平四一八一五、古宇利出身）
○山内昌敬（字与那嶺四二九）
○嘉手納秀一（字今泊八）
○照屋恒子（字渡喜仁四二二）
○大井川歯科医院（神元ハツ・神元繁一、本部町字渡久地）

○屋嘉部景栄（浦添市字安波茶五一五、仲尾次出身）



嘉手納 秀一氏
(明41年12月5日生)

●現住所―字今泊八
●民生委員十年
●農業委員六年



志良堂 清次郎氏
(大11年1月31日生)

●現住所―字湧川二八五一―
●村内の学校長十年



大城 静雄氏
(大9年12月22日生)

●現住所―浦添市大平四二八―
●村内の学校長十二年六ヵ月



山内 昌敬氏
(大12年12月28日生)

●現住所―字与那嶺四二九
●村内の学校長八年



小那覇 安清氏
(大11年9月15日生)

●現住所―字古宇利一六七
●教育委員九年、民生委員六年十一月ヵ月



宮城 新喜氏
(大6年12月10日生)

●現住所―字湧川六〇三
●議員二五年六ヵ月（うち議長八年）



嘉陽 宗哲氏
(大7年11月10日生)



嘉敷 安喜氏
(大11年3月31日生)

●現住所―字今泊一五七
●議員十六年



大井川歯科医院
神元ハツ・繁一氏

●現住所―本部町
●親子二代にわたり二四年十ヵ月本村で開院

●屋嘉部 景 栄氏
(大五年二月二五日生)

●現住所―浦添市安波茶五一五
●教育振興に尽くした功労

●照屋 恒 子氏
(大十年三月十四日生)

●現住所―字渡喜仁四二二
●民生委員九年十一月ヵ月

※都合により当日会場に来られなかつた方々の写真ははぶかせていただきました。

入札結果のお知らせ

九月一日から十月三〇日までに行なわれた入札の結果を次のとおりお知らせします。
(工事名・金額・落札者名)

▼簡易水道工事
四、七〇〇万円
(岡国吉組)

▼謝名玉城線改良舗装工事
代表者 国吉 真栄
(A工区)
三、九〇〇万円
(南)孝夫組

▼謝名玉城線改良舗装工事
代表者 仲原 孝夫
(B工区)
一、九〇〇万円
新城組

▼今帰仁中学校校舎
代表者 新城 吉清
建物及び撤去工事
七、七四〇万円
新城組

▼今帰仁中学校校舎設備工事
代表者 新城 吉清
一、四六三万円
上地電気工事社

▼兼次中学校校舎
代表者 上地 完衛
建物及び撤去工事
六、一〇〇万円
島政建設

▼兼次中学校校舎設備工事
代表者 島袋 政春
七二〇万円
池田電気工事社

▼中央線舗装工事
代表者 池田 清吉
九一〇万円
島政建設

代表者 島袋 政春

代表者 島袋 政春

代表者 池田 清吉

代表者 島袋 政春

代表者 島袋 政春

11月は国民年金推進月間

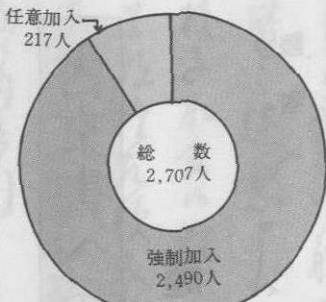
沖縄に国民年金制度ができてから、はや13年経ち、県民の老後の豊かな生活を支える制度として定着してきました。

高齢化社会の到来が叫ばれている昨今は、国民年金に対する関心と、より一層の充実発展する声が毎日に高まっています。

11月は「国民年金推進月間」と定められており、期間中いろいろな行事を通して国民年金に

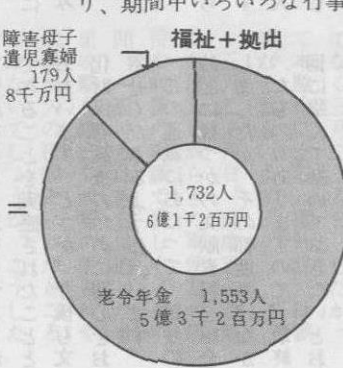
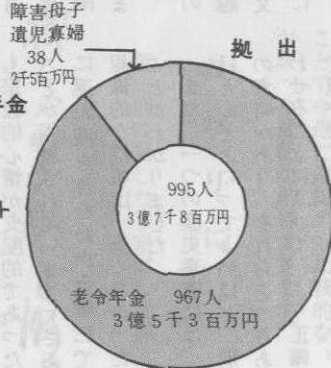
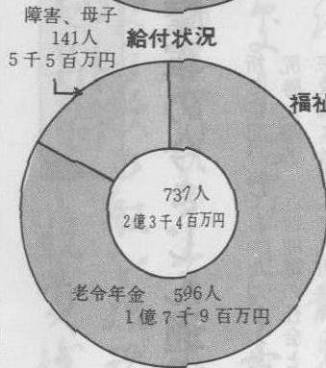
対する理解と認識をいっそう深めるとともに無年金者がでないよう努力していきます。

さて、今帰仁村の国民年金事業の状況はどんなものか、村の事業状況と県全体の事業状況を表にまとめてみました。



保険料収納状況

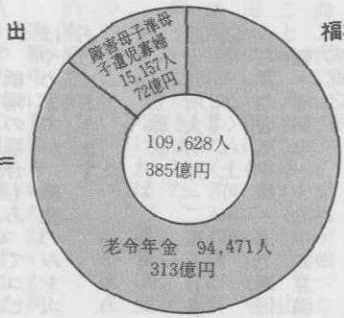
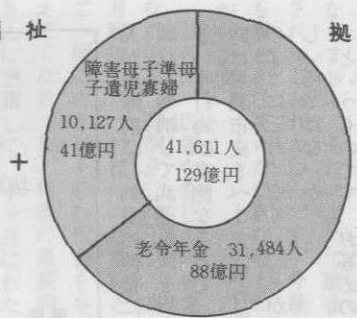
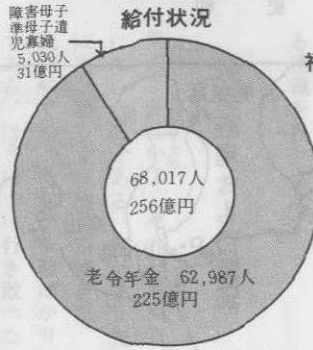
54年度	96,399,000
55年度	103,555,290
56年度	106,921,400
57年度	106,705,080



保険料収納状況

種別	現年度分	過年度分	計
54年度	7,569,775,000円	989,637,000円	8,559,412,000円
55年度	8,077,722,000円	1,828,970,000円	9,906,692,000円
56年度	8,688,548,000円	642,559,000円	9,331,107,000円
57年度	9,011,449,000円	687,623,000円	9,699,072,000円

沖縄県全体の場合



- ▼今帰仁村コミュニティセンター
I新築工事
二〇、五〇〇万円
- ▼共同企業体
代表者 大城 栄一
- ▼今帰仁村コミュニティセンター
I電気設備工事
二、二五〇万円
- 池田電気工事社
代表者 池田 清吉
- ▼今帰仁村コミュニティセンター
I機械設備工事(給排水)
一、六七〇万円
- 山川電気工事社
代表者 山川 哲男
- ▼今帰仁村コミュニティセンター
I機械設備工事(空調)
一、一八五万円
- (株)沖縄ナショナル特機
代表者 仲里 政幸
- ▼古宇利小中学校校舎撤去工事
二七〇万円
- 嘉陽組
代表者 嘉陽 重安
- ▼古宇利小中学校校舎新増
改築設備工事
一、一三〇万円
- (株)金良電化センター
代表者 金良 宗幸
- ▼古宇利幼稚園舎新増築工事
一、五〇〇万円
- 嘉陽組
代表者 嘉陽 重安
- ▼古宇利幼稚園舎
新増築設備工事
四〇五万円
- 向陽電気
代表者 内間 正勝
- ▼古宇利小中学校校舎
新増改築工事
七、五五〇万円
- 嘉陽組
代表者 嘉陽 重安

古文書への招待

薩摩軍の今きじん通過記録 ⑩

最終回

読者へ

今年の二月号からこの十一月号まで、十回にわたって「薩藩旧記雑録」のうち、琉球侵入関係の部分をご一緒に読んできました。

企画のはじめには、古文書の表現や当時の仮名遣いにも話題を広げようかとおもい、「古文書への招待」というタイトルにしましたが、考え方を変更し、いわゆる「慶長の薩摩侵入」についての直接記録の本物を読み通すことにしました。

この中で、第一回の書き起こしにわたしが提起しておいた、幾つかの疑問が、読み進むうちに解けてきたとおもいます。すなわち、運天の断崖の夥しい人骨は（風葬跡かどうかは別として）少くとも伝説のような、当時の激戦による薩摩軍戦死者のものではあり得ないこと、またウケーメーピラの粟粥伝説は、薩摩軍の足を滑らせるといふ愚かな計略ではなく、外敵退散を

祈る祭祀行為であったこと（島尻勝太郎著『近世沖縄の社会と宗教』に当時は政治的技術よりも宗教的心情が支配的であったことが指摘されています）、さらに運天港を含むわが今帰仁で組織的な抗戦は、全くなかったことがわかりました。

また、一つの歴史事実には、ほとんどといってよいほど、別の資料があり、それらをつきあわせることによって、より正確で豊かなイメージをもつことができることを実感されたこととおもいます。どうか、今後も文化財保存調査のために関心をお寄せくださるようねがいます。

この連載にあたって、毎号の註記に幾つかの文献資料を紹介しましたが、その都度挙げなかつたものもありますので、最終回に臨んで括めておきたいとおもいます。

- 「鹿児島県の歴史散歩」山川出版社
- 「今帰仁村史」今帰仁村
- 「名瀬市誌」名瀬市
- 「笠利町史」笠利町

● 「沖永良部島郷土史資料」和泊町

● 「喜安日記」日本庶民生活史料集成・三一書房

● 「那覇市史」那覇市

● 「南聘紀考」那覇市史所蔵マイクロフィルム影印本

● 「日本国語大辞典」小学館

● 「万有百科大事典」小学館

● 「日本大地図」同右別巻

● 「沖繩歴史地図（歴史編）」柏書房

立願状のこと

ところで、第六回で触れた、「立願状」について、ある読者から質問を受けました。最終回なので、今一度多少詳しく述べておきます。

質問の第一。「琉球渡海日々記」で那覇市史掲載のものには表題がついており、解説（稲村賢敷）にも市来孫兵衛が書いたと明記してある。「立願状」も市来孫兵衛の日記の一部ではないか。

質問第二。もしそうなら、軍



人が出陣前に、郷里の神社に立願状を奉納して武運長久を祈るという行為は自然なこと、日時は那覇市史5ページ（欄外註）のように三月でなく、二月が正しいのではないかと。

というものです。お答えの前に、紙幅の都合もあってコピーはやめますが、原文のみを次にあげておきます。

立願状

四十九所大明神ニ二夜三日参籠之事并かくら上可申事

右意趣者旅中殊ニ海上無何事輒々帰朝申一々心中如意満足成就之所

慶長十四年三月廿八日

那覇院織部祐

良書判

鹿野屋民部左衛門

兼次書判
切通五郎兵衛
俊重書判
益山兵部左衛門
忠美無書判
市来孫兵衛
家元書判

以上は「薩藩旧記雑録」の日記の次に一行あけて記載されているのですが、昭和三年写本（那覇市史底本）には、日々記の一部としてあり、筆写された木脇氏が、別資料によって付加されたとおもわれる書判があります。ついでながら、益山兵部左衛門の名は「旧記雑録」「昭和三年写本」とも忠美ですが、なぜか「那覇市史」には忠実となつていません。

さて質問の第一ですが、この

若き後継者たち

16

野菜とともに歩む

崎山の金城 弘さん

農業を始めて三年。今は技術を覚えるのに懸命という金城弘さん(二十八歳、字崎山一三二)。う会社勤務を経て、三年前から、今月は登場いただいた。

野菜の本場崎山で長年農業を

北農を都合で中退した後、本の鉄工所勤務や県内でのコーラ会社勤務を経て、三年前から農業に従事。父親の林昌さんが西瓜・野菜づくり二十五年、ハウス栽培二十年



営む金城林昌・美江夫妻の六人兄弟の長男。本人も洋子夫人との間に長男洋之君(八歳)次男博二君(四歳)という二人の息子さんを持つ若い父親だ。

ムで経営の向上をめざしている。多角農業のため、今の時期はハウス西瓜の植付準備、キュウリ、トマトの植付、キャベツの収穫と、休む間もない忙しさだ。

昨年の西瓜の大暴落で受けた栽培農家のショックは大きかった。それだけに今年にかける意欲と、病害虫防除、土づくり、かん水には細心の注意を払っているという。

仲尾次・崎山地区の若者で構成する農友会(会員二十名)の一員として月一回の会合、資金づくり、技術の勉強会、また農協青年部さらには西瓜部会の活動も農業の充実には欠かせないところ。

あと二・三年の経験を積み、ハウスや規模の拡大を図りたいとしているが、当面懸念される問題は「西瓜価格の安定」。技術の向上とともに、農協、役場、栽培農家が一体となった対応策が望まれるところである。

写真→家族総出でキャベツの収穫をする金城さん一家

第8回北部地区畜産共進会 種豚部門に上位入賞

北部振興会主催の「第八回北部地区畜産共進会」が、十月十四日村家畜セリ市場で行われた。村からも二七頭が出品。うち二等までの入賞は次のとおり。

肉用牛第一類経産牛Ⅱ二等当 間正安(与那嶺)

肉用牛第二類経産牛Ⅱ二等 川安弘(謝名) 大城喜英(平敷)

乳用牛第二類経産牛Ⅰ一等 原正春(今泊) 二等大城克彦(今泊)

種豚第一類未經産豚Ⅱ等大 城義雄(崎山)

種豚第二類未經産豚Ⅱ二等真 栄田義秋(上運天) 喜屋武清賢(渡喜仁)

種豚第二類経産豚Ⅰ優等運天

政春(運天) 一等大城修(謝名) 二等田港朝明(湧川) 種豚第二類若令雄Ⅰ優等仲本達美(崎山)

種豚第一類壯令雄Ⅰ優等田港朝明(湧川) 二頭我那覇隆秀(仲宗根)

肉用牛第一類去勢牛Ⅰ一等松田喜幸(謝名) 二頭山城昌真(兼次) 伊野波盛康(今泊)

ご寄附

10月15日、字与那嶺111の与那嶺美津子さんより、故福次郎さんの香典返しとして村老人クラブ連合会並びに同三味線クラブへ合わせて6万円の寄附がありました。また村社協へも3万円の寄附がありました。

ご寄贈

東京都杉並区高井戸西2-7-3の松田精賢さん(仲宗根出身)より村内の4中学校へ今婦仁方言事典(仲宗根政善著、定価2万5千円)それぞれ1冊づつの寄贈がありました。

11月は全国青少年健全育成強調月間

青少年を健全に育てていくということは、日々の社会生活の中で営まれていくものです。

- 11月の強調月間の重点目標として
- ① 青少年の社会参加の促進
 - ② 地域における青少年育成活動の促進
 - ③ 健全な家庭生活の普及促進
- が上げられています。

子どもと話し合い、ふれあう機会を設けてはいかがでしょうか。

今婦仁村役場 今婦仁村青少年協

▶ 村家畜市場で行われた地区大会



高まる花いっば運動 婦人会が美化コンクール

熱が高まりつつある。

県婦人連合会の主催する美化コンクールは今年で十三回目を迎え、十一月十一日北部地区審査、十七日は県審査が行われる。

それに先立ち、村婦人会（諸喜田スエ子会長）が十月六日村内審査を実施した結果、今年の村代表は仲宗根公民館周辺地区に決定した。

仲宗根公民館周辺の道路沿いは、近くの主婦たちの熱心な手入れで四季を問わず草花が咲き

クリーン・グレイーン・グレイシャスを合言葉に、心豊かなふるさとづくり運動推進週間が県の提唱で十月二日から三十日まで県下一斉に実施された。緑化と美化は人間生活に不可欠のもので、このところ村内でも植樹・美化作業の

誇り、通る人の目と心を楽しませているところ。加えて字婦人会（平良京子会長、会員一六〇名）では、十月九日（日）会員三五名の参加と御主人の応援を得て、公民館前の字有地に見事な庭園をつくり上げた。

美化や緑化はコンクールのためにやるものではないだろうがこの一帯は日常生活として花と緑を取り入れており、そこに大きな意義があるといえよう。クリーン・グリーン・グレイシャス運動は、美化・緑化ともうひとつ思いやりの心も入るといえる。通るたびに、花の美しさと植えた人の心がしのばれるところ。ここをふれあい通りとでも名付けようか。



▲庭園造りに頑張る仲宗根婦人会の皆さん

村政を支える 納税優秀な十カ字を表彰

昭和五十七年度納税表彰式が十月十一日午後二時から役場ホールで行われました（写真下）。

表彰されたのは、納税百分の兼次・与那嶺・崎山・越地・上運天・運天の外、九五%以上の平敷・謝名・呉我山・勢理客の

十カ字。なお、村全体では九六・三二%の納付率となっております。納税は村政を支える基盤です。村民の理解と協力で、納付率も年々向上していますが、今年度は全字が百分達成できるようにしたいものです。

商工会青年部 駅伝・運動会を実施

沖縄県商工会連合会の設立十周年を記念した「本島一周駅伝大会」が十月二十三日県下で行われた。大会は勝負を競うものではなく、国頭から那覇まで各市町村商工会の協力を得て縦断しようというもの。



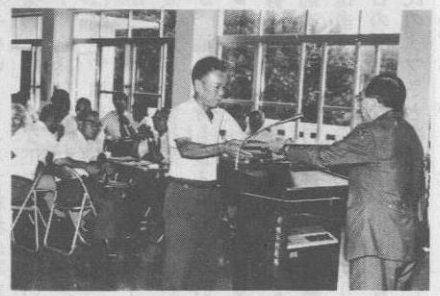
選手は八人組で、青年団からA・B、消防団からA・B、中学生一チームが出場した。午後四時には集落センター前を一齐にスタート。結果は二位に五分もの大差をつけ中学生チームが優勝。二位青年団A、三位同B、四位消防団A、五位同Bの順位だった。なお成果をふまえ、今後毎年大会を催す予定。

村商工会青年部（大嶺英元部長）の受持区間は湧川から具志堅までの十二キロメートル。午前八時からの進発式に続き八時三十分ちょうどに湧川給油所前をスタートした。練習不足で不安もあったが、全員が力強く走り設立記念と活動の意義を訴えた。約五十分後の九時二十分には本部町にバトンタッチし、無事に役目を果たした（写真下）。なお午後からは青年部が中心

となり商工会の運動会が今中であり、会員の親睦を深めていた。

湧川で 第一回区民駅伝大会

市民の融和と体力の向上を図ろうと、「第一回湧川区民駅伝大会」が十月二十三日行われた。大会は字青年団主催、消防団協賛によるもので、コースは字一周の一万二千メートル。





11月1日
12月2日

村民カレンダー



11/1 火		17 木	
2 水	○乳幼児学級 (13:30、中央公民館) ○心配ごと相談 (13:00、中央公民館)	18 金	○高齢者教室 (14:00、中央公民館)
3 木	○文化の日 ○第10回老人婦人スポーツ大会 (9:00、村営グラウンド)	19 土	○ホッケー教室 (15:00、村営グラウンド) ○健康相談 (8:30~12:00、保健婦室)
4 金	○ポリオ (13:00、役場ホール) ○国頭地区自治公民館長研修会 (13:00、中央公民館)	20 日	○県民体育大会ホッケーの部 (9:00、村営グラウンド) ○親子映画劇場 (15:00、中央公民館)
5 土	○健康相談 (8:30~12:00、保健婦室) ○ホッケー教室 (15:00、村営グラウンド)	21 月	○区長会 (14:00、役場会議室)
6 日	○ホッケー教室 (10:00、村営グラウンド) ○生花教室 (13:00、中央公民館)	22 火	
7 月	○区長会 (14:00、役場会議室) ○3才児健診(13:00~15:00、役場ホール)	23 水	○勤労感謝の日 ○子ども会ジュニアリーダー研修会 (金武町) ○移動心配ごと相談 (13:00、謝名公民館)
8 火		24 木	○公民館講座 (14:00、中央公民館)
9 水	○心配ごと相談 (13:00、中央公民館)	25 金	○村公連研修会 (9:00、具志頭村) ○農業委員会総会 (10:00、役場会議室) ○DPT (13:00、役場ホール)
10 木	○今小校区家庭教育学級 (14:00、今小) ○子豚セリ市 (13:00、家畜セリ市場) ○人権相談 (10:00、中央公民館)	26 土	○防火デー ○子豚セリ市 (13:00、家畜セリ市場) ○奉道教室 (14:00、中央公民館) ○ホッケー教室 (15:00、村営グラウンド) ○北山高35周年記念式典 (14:00、北山高)
11 金	○移動やんばる展 (写真部門、13日まで中央公民館)	27 日	○第1回壮年ソフトボール大会(9:00、村営グラウンド) ○乳児健診(3ヵ月児~1歳児、9:30、役場ホール) ○生花教室 (13:00、中央公民館)
12 土	○天小校区家庭教育学級 (13日まで久米島) ○ホッケー教室 (15:00、村営グラウンド)	28 月	
13 日	○ホッケー教室 (10:00、村営グラウンド)	29 火	
14 月		30 水	○村内小中学校童話お話し大会 ○心配ごと相談 (13:00、中央公民館)
15 火	○第7回村内各団体ソフトボール大会 (09:00、村営グラウンド)	12/1 木	
16 水	○心配ごと相談 (13:00、中央公民館) ○肉用牛セリ市 (12:00、家畜セリ市場) ○公民館運営会・社教委員会(14:00、中央公民館)	2 金	

■にぎやかな蟬の鳴き声がいっ
の間にか消え、この頃はコオロ
ギとスズ虫の音が酒と読書の友
となった。忍び寄る秋・深まり
行く秋。秋はスポーツ・食欲・
読書に加え、失恋のイメージも
浮かびあがる。失恋の痛手は大
きい。けれど、いつまでも恋を
する心は持ち続けよう。失意に
悩むA君にこの言葉を捧げたい。
■香りでフランス料理、味で中
華、視て日本食といわれる。ど
ちらも料理を引き立てるには欠
かせない。ところで料理の写真
撮影には色々な工夫があるとい
う。絵具を塗ったり、刺身など
は刷毛で油を塗るのだそうだ。
かつてマヨネーズで刺身を食う
友人がいて気持悪い思いをした
が、油入刺身も食えそうにない。
■連続十回にわたり連載の古文
者への招待・薩摩軍の今きじん
通過記録は今月で終わり。広報
担当には真似のできない締切り
日の厳守を成し得けた村上仁賢
氏のタフさと熱意に敬意を表し
たい。ありがとうございます。



編集後記